学びに向かう力の育成

~「対話」「見通し」「振り返り」の学習過程を大切にした授業づくり~

(3年計画の3年次)

校長 古川 祐 行

1 研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

本校では、教育目標に「めあてをもって生き生きと学ぶ子に」、努力目標に「進んで楽しく学ぶ」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。今年度は学校目標を「粘り強く挑戦する 西園っ子」とした。その具現化のために、課題解決に向けて共に考え、学習活動を振り返ることで身に付けた力を自覚したり、新たな課題を設定したりできる「学びに向かう子」の育成を目指している。

(2) これまでの研究経過から

本校では一昨年度から、研究主題を「学びに向かう力の育成」と設定した。「学びに向かう力」を、「他者との関わりの中で、自分の考えを広げたり深めたりする力」「見通しをもって学習に取り組む力」「学習活動を振り返って次につなげる力」ととらえ、授業実践に取り組んだ。

その結果、見通しをもたせることで課題が焦点化され、課題に向かう必要感をもつことができたことや、振り返りの項目を精選して提示したことで、学習した内容を意識させたり次時への意欲付けが図られたりしたことが成果として挙げられた。しかし、コロナ禍により対話の場を思うように授業に組み込むことができなかったため、十分な研究はできず結果を得ることができなかった。

そこで、今年度は、自分の考えを広げたり深めたりする対話の場、認め合う場を学習過程に位置付けることを重点とし、研究を展開していく。また、昨年度までの成果を生かし、児童が自ら課題を発見し、問題解決に向かうための「見通し」をもたせる場、身に付けた力や自己の学び方を意識させ、学ぶ意欲を喚起する「振り返り」の場の設定も取り入れて研究実践を積み重ねることで、学びに向かう力が育つと考えられる。

2 研究のねらい

学習に対する見通しをもたせ、対話や振り返りを学習過程に位置付けた指導を工夫することで確かな学力の定着を図り、学びに向かう力を育成できることを、授業実践を通して明らかにする。

3 研究仮説

「対話」「見通し」「振り返り」を意識した授業実践を行うことにより、児童一人一人の課題意識を喚起し、学ぶことのよさや意義を意識させることで、学びに向かう力を育成することができる。

4 研究内容

研究のねらいを達成するために、支持的雰囲気の学級づくりを基盤に、次の3つの内容について 授業実践を通して明らかにする。

- (1) 他者との関わりの中で、自分の考えを広げたり深めたりするための対話の場の工夫
- (2) 見通しをもって学習に取り組むための教材のしかけや発問の工夫
- (3) 学習活動を振り返るための視点の与え方の工夫

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名	概要
6	29	第1回授業研究(5学年 理科)	前時までに作成した観察カードを活用し、
		授業者 教諭 金入 照泰	見通しをもって本時の学習に取り組むことが
		題材名 魚のたんじょう	できた。課題が焦点化されたことで個々のつ
			ぶやきが増え、全体への対話につながった。
9	7	第2回授業研究(3学年 社会科)	導入で、チラシの提示や実際のスーパー
		授業者 教諭 岩間 章吾	ーケットの名前を用いたクイズをしたことに
		題材名 スーパーマーケットのよいところ	より、一人一人に考えをもたせることができ
			た。また、全員に立場を表明させたことで主
			体的に対話することができた。
11	9	三条中学校区 ジョイントスクール推進事業	本校の研究仮説に基づいた授業を、全学級
		授業公開(会場:西園小学校)	公開した。
11	16	第3回授業研究(要請訪問 3学年 国語科)	導入時の発問により筆者の考えとのずれが
		授業者 教諭 鮫ノ口 佳織	生まれ、主体的に考えることができた。また、
		題材名 すがたをかえる大豆	多様な対話の場を設けたことで、自分の考え
		助言者 福田 秀貴 主任指導主事	を広げたり深めたりすることができた。
12	21	第4回授業研究(1学年 国語科)	ゲストティーチャーの活用により、相手に
		授業者 教諭 新田 千紘	興味をもち質問したいという意欲をもつこと
		題材名 ともだちのこと しらせよう	ができた。話型の提示により、自信をもって
			対話することができた。

(2) 一般研修

(4)	<u> </u>	NX切115	
月	日	研修内容	
6	1	特別支援教育研修会 (講師 子ども支援センター 川野輪 美穂 指導主事)	
7	20	QUに関する研修会 (講師 子ども支援センター 原 寿 先生)	
8	19	プログラミング・ICT教育に関する研修会	
		(講師 八戸市総合教育センター 石井 一二三 主任指導主事)	
11	29	特別支援学級授業公開 本校教諭 いちょう学級 杉澤 敬子	
	\sim	ゆりのき学級 木村 真由美	
12	5		

6 研究の成果

- (1) 様々な形態での対話の場の設定や話型の提示等の工夫により、伝え合うよさを感じ、自分の考えを自信をもって伝えたり考えを深めたりすることができた。
- (2) 思考のずれや必要感を生む発問、自分の立場を明確にする場面を意図的に設定する等の工夫により、課題を自分事としてとらえ、めあてやまとめを自分なりの言葉で考えることができた。
- (3) 「振り返りのポイント」を継続的に活用することで、自分の思いをしっかり書けるようになるとともに、「分かった、できた」を実感し学びに向かう力をつけることができた。

7 研究の課題

- (1) 課題意識をもたせるしかけや発問によって対話の必要感をもたせ、自分の考えを広げたり深めたりできるように研究を継続していく必要がある。
- (2) 学びの自覚につながるような、振り返りの方法を考えていく必要がある。